

「平成24年度予算編成方針」部課長会 市長挨拶

日時 平成23年10月13日(木) 9:00
場所 市役所13階 大会議室

平成24年度の予算編成に当たりまして、まず、私から基本的なポイントについてお話を申し上げます。

具体的な編成方針等につきましては、後ほど、財務部長から説明いたしますが、私から、概略、考え方、大枠を話させていただきますが、その基本的な考え方を十分に踏まえていただきまして、予算要求、編成等を行っていただくようお願いします。

まず、現在の本市の財政状況でございますが、22年度決算を見てみますと、一般会計決算で申しますと、歳入の根幹をなす市税収入が、20、21、22年と3年連続の減収となっております。厳しい状況となっておりますが、国の地方財政対策において地方交付税の増額措置などが図られまして、22年度の実質収支は、どうにか前年並みの40億円余の黒字は確保できているところでございます。

また、積立基金は若干減少したところでございますが、財政健全化の対策も併せて進めた結果、臨時財政対策債を除く市債の現在高は着実に減少しているところでございます。また、収支の公債費と起債の発行額とのいわゆるプライマリーバランスにつきましても、7年連続で黒字を堅持できたところでございます。そういう意味で、本市の財政健全化は一定程度、確保できているという状況になっております。

ただ、現時点でギリギリ健全化を確保できておりますが、今後を見通しますと原発事故等に伴う電力不足の懸念、また、急激な円高等による輸出企業の不振などもあり、国民生活や産業経済への悪影響が今後、顕在化してくるのではないかと懸念されています。また、来年度の市税収入を見通してみましても、個人市民税、法人市民税とともに、所得の減、経済状況の悪化等々によりまして、確実に増収が見込める状況にはございません。また、固定資産税においては、来年度は評価替えの年でありまして、評価替えに伴い、土地の価格が下落しておりますし、建物の経年で評価が下がると言う形になりまして、減収見通しになっているところであります。あとは、国の地方財政対策等に多くを頼らなければならない状況になり

ますが、それ自体も不透明感があるということでありまして、来年度の予算を取り巻く財政状況、周辺環境は、非常に厳しい状況にあるということをご認識していただきたいと思えます。

このような中、中期財政収支見通しを策定したわけですが、この中では、一般会計における24年度から27年度までの4年間で一般財源の不足額が、約254億円と推計されました。昨年の同時期に推計した23年度から26年度までの4年間の財源不足額約180億円と比べますと、更に74億円の拡大という見込みとなっております。

平成24年度において歳入の根幹を成す市税収入は、3年連続で減収となった22年度の税込水準から更に減収する見込みであります。一層、依存財源に頼らざるを得ない状況で、このような状況は、かなり不透明であり、より厳しい見込みであります。

また、昨年度に引き続き、策定いたしました24年度から10年間の長期財政収支見通しでございますが、これによりますと、10年間で約865億円にのぼる多額の一般財源の不足が見込まれております。

特にこの10年間の見通しによりますと、28年度から交付税の合併算定の特例が順次、縮小されることなどによりまして、10年後にかけて財政収支不足が拡大する懸念がございます。

このような状況下における、財政運営、施策の推進を図っていかねばならない中で、特に24年度からスタートさせる「第3期まちづくり戦略計画」や、27年度までになっていきます合併町との建設計画に掲げました事業の着実な推進を図っていかねばなりません。さらに、私が4月の選挙時に掲げました「マニフェスト2011」に掲げる、コミュニティの再生や防災対策、子ども・子育て支援、教育環境の整備などの政策項目や、住民生活に関わる喫緊の課題への対応につきましても、着実に推進していかねばならないと考えております。

このようなことから、この財源不足を様々な努力により、解消しながら、その財源を真に必要な施策に振り向けていく、施策の実行に繋げていくといった努力が必要であると考えているところでございます。

以上のことを踏まえまして、これからお話しします3つの点に留意していただきまして、来年度予算の編成に臨んでいただくようお願いしたいと存じます。

1つ目は、「行財政改革」への不断の努力であります。

この行財政改革につきましては、私のマニフェストの中で、「厳しい財政状況の中、行財政全般にわたって事務執行の体制や進め方を不断に見直し、最小の経費で最大の効果を挙げることを掲げております。

先ほども申しあげましたが、24年度から27年度までの中期財政収支見通しにおいては、約254億円の財源不足が生じることとなるため、来年度予算編成が非常に厳しい現状であることを十分に認識の上、まずは行革計画の取組を確実に実践するとともに、運営指針に掲げる方策を漏れなく実行するなど、たゆまぬ行財政改革への不断の努力を進めていただくようお願いいたします。

それから、2点目は、事業仕分けの判定結果について、その趣旨を十分検証し、その対象事業のみならず、類似事業全般についても市民に納得いただけるような、厳しい選択や改善を行っていただきたいということです。

去る7月に実施いたしました事業仕分けにおきましては、対象となった事業に対して厳しい意見が出されたところでございます。今のまま継続して実施という事業はありませんでした。不要とされた事業2件を含めまして、再検討や、要改善というような判定が下されております。

これらにつきましては、利害関係のない第三者の意見ということでございますが、逆に言えば、客観的にみて頂いた、純粋な生の声ということも言えるわけでございまして、これまで行政として、当たり前のようにやっていることが、市民目線、あるいは第三者の、客観的な観点から見れば、大きく異なっているということでございますので、これらの意見につきましては、真摯に受け止めた上で、この仕分け結果が出された事業はもとより、類似の事業全般についても、事業仕分けの考え方、観点といったものを取り入れて、積極的に見直しを行っていただきと思います。

既にいくつかの事業については方針等、お話をお聞きしておりますが、大胆な見直しをしていただける部局もあるようですが、この事業仕分けは、節減、事業の縮小を図るためだけにやっているだけではなく、ある目的のためにやっておりますけれども、その目的に照らし

て、そのやり方、あるいは内容等が適しているかどうか、それよりはその事業を廃止して、他の事業を実施した方がよりその目的を達成できるのではないかと、言うような観点からのご意見もたくさん出てきておりますので、事業仕分けの議論の内容等も目を通していただきながら、積極的に事業の見直しを行っていただきたいと思います。

3点目といたしまして、予算要求に当たりましては、事務事業につきまして、長期的な視点に立った要求をお願いしたいということでございます。

先ほども触れましたけれども、今後10年の長期財政収見通しを立てますと、特に合併算定の特例が終わる28年度以降、段階的に交付税の財源措置の縮小が予定されています。したがって、来年がなんとか凌げたとしても今後それが膨らんでいくような事業であれば、どんどん財政を圧迫する要因になります。それが目的にかなっていればよいのですが、もう少し違うやり方があるのではないかと、長期的に見て最も効率的、その目的を達成するにふさわしい事業を必要最小限の予算額で見込むことが必要になると思います。

このような長期財政収支見通しを想定した上で、長期的な財源的な確保対策も併せて考えた上で施策の要求等を行ってほしいと思っております。

具体的に言いますと、長期的な財政負担が伴う事業については、極力、交付税措置のある市債を活用するなど、できるだけ将来に負担を先送りしないように、より近い時点において効率的に執行して将来負担を軽減する方策があれば、そういう方策を積極的にとるよう、徹底した事業の取捨選択と優先順位付け、さらに、財源確保に留意した要求を行っていただきたいと思います。

以上、基本的な考え方といたしまして、私から3点申しあげました。

国の来年度予算の概算要求は、例年より1月遅れで作業が進んでおります。例年のペースでは国の状況が明らかにならない不透明な中での予算編成となるというのは止むを得ないと思っておりますが、ただ極力、国の制度改革等、一つ例を挙げますと来年度は、社会保障の分野におきまして、診療報酬の改定と介護報酬の改定が同時改定になるという年でありませう。そうした大きな制度変更も予想されているところですが、極力その様な状況についても

アンテナを高く張っていただき情報収集に努めていただいた上で、適切な要求をお願いしたいと思います。

冒頭から申しておりますように、厳しい財政状況を踏まえまして、来年度の予算要求につきまして一般管理経費などの経常的な経費につきましては、部局裁量経費として、23年度予算額の97%の範囲内で見積もることとするマイナスシーリングの設定をさせていただきたいと思っております。前年より3%減にしてくれと言うことで、相当色々厳しいことになろうかと思いますが、本市の財政を取り巻く厳しい状況、また、長期的な見通しに基づき、更に厳しい状況を十分勘案していただいて、極力、経常的経費、管理経費につきまして節減できるところは節減していただきまして、3%減、97%範囲内で見積もっていただきたいと思っております。

特に部局長さんには、各課、各係、事業ごとに様々でございますが、それを全体でどうか枠の中でまとめていただきまして、要求をしていただきたいと思っております。

それぞれ、管理職の皆様にリーダーシップをしっかりと発揮され、既存の制度・慣習にとらわれずに、職員の意識改革を促しながら、英知を結集し、創意工夫による来年度当初予算の要求につきまして、適切に対応していただくよう、よろしくをお願いしたいと存じます。

以上のことを24年度の当初予算の編成に当たりまして、私のほうからお願いいたしまして、御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。